

第18回Wリーグ

プレーオフ・ファイナル 第3戦

会見要旨



JX-ENEOSサンフラワーズ(3勝0敗)

■トム・ホーバス ヘッドコーチ

今日は出だしがすごく大事だった。ティップオフで負けたのは今シーズン 2 回目だと思うが、それはショックだった。「また、出だしが悪くなるかな」と思ったが、相手がフリースローを落としたりして、そこから私たちのバスケットができた。ディフェンスがアジャストでき、相手がミスマッチを作ろうとしたところをすべて抑えられたと思う。40 分間、本当に良いバスケットができた。

私たちのモチベーションは「昨日より明日」。選手たちが自分たちでモチベーションを維持していくことができる。良い選手がいるチームだが、「良いチーム」をつくろうと思っていた。それができたことが一番嬉しい、そういうシーズンになったと思う。

■#0 吉田 亜沙美 選手

今日は強い気持ちを持って、JX-ENEOS のバスケットをしようと臨みた。ディフェンスもしっかり我慢して、ローテーションを守ったり、コミュニケーションを取ったりしながら、トム HC が目指すバスケットがしっかりできたと思う。全員で JX-ENEOS のバスケットを表現ができたことが良かったと思う。

今シーズンは、相手がどこであろうと関係なく「自分たちのバスケットをやる」というのがテーマだった。誰がコートに立っても同じ内容のバスケットができるように、日々練習を重ねてきた。いかに自分たちを超えるか、トム HC の目指す理想のバスケットに追いつき、追い越せるかが選手たちの目標だった。トム HC は「まだまだ」と言うかもしれないが、少し表現できたと思う。

■#21 間宮 佑圭 選手

今日の試合は、もっともっと、トム HC が表現したいと思っているバスケット、もっと強いバスケットがしたかったのでその点だけは残念。やはりトヨタ自動車も良いチームで、3 回も戦っているのでもっとアジャストしてきたし、体力面でも踏ん張りが利かなかったかなと思う。そこは課題であり、その「残念」な部分は、トム HC がすごく強いチームにしてくれたからであって、自分たちの目標が一段も二段も高いものとなっていたからだと感じている。今シーズン、選手 1 人 1 人が成長できた。それが、優勝と合わせてとてもいいシーズンになったと思う。

■#52 宮澤 夕貴 選手

オフェンス面ではまだまだできたかな、というのが率直な感想。ディフェンス面はよく我慢でき、相手

をよく抑えることができた。私たちはディフェンスのチームで、しっかり守って勝つことができたので良かったと思う。

勝つことは当たり前という雰囲気の中、選手 1 人 1 人が成長することを目標にしてきた。勝った試合のあとも、トム HC と話すと、「ここがダメ、ここはもう少しできるよ」と言われて、自分に甘い部分があるとまた分かった。それを意識して、自分が理解しながらプレーをして成長できたシーズンだった。

第18回Wリーグ

プレーオフ・ファイナル 第3戦

会見要旨



トヨタ自動車アンテロープス(0勝3敗)

■ドナルド・ベック ヘッドコーチ

まずはトム・ホーバス HC と JX-ENEOS のチームにお祝いを言いたい。私のキャリアで 10 回目のファイナルだったが、今までのファイナルの中で一番の強敵と戦った。シーズンを無敗で優勝したが、JX-ENEOS はそれに値するチームだと思う。本当におめでとう。

私が自分たちのチームをどれほど誇りに思っているかを伝えたいと思う。私がコーチをしてきたチームの中で、一番いいチームだった。リーダーズの表彰があったが、その中にトヨタの選手は 1 人（水島選手：フリースロー）しかいなかった。そこを見てもわかると思うが、そのチームがファイナルを戦うことができた。トヨタの選手 1 人 1 人がハードワークをこなし、ファイナルをしっかりと戦えたことは、彼女たちがそれに値する選手だという証である。本当に誇りに思うのは、彼女たちがどういう目標を持って、練習に取り組んできたのか、そのプロセスを大切にしてきたかということ。これまでの女子のトップチームとは違うアプローチでチームづくりに取り組んできた。昨年から大神選手が加入し、練習から楽しく、しかし厳しく取り組むことがいかに大事なことから、それはバスケットボールに限らず、人生においても同じことが言えると思う。これからも引き続き、しっかり練習をして成長してけるように頑張りたい。

■#1 大神 雄子 選手

JX-ENEOS サンフラワーズの選手全員に「優勝、おめでとうございます」と、試合が終わった直後に声をかけた。それを伝える場に自分たちがいられたことをうれしく思っている。でも、欲を言えば、自分たちが勝って「おめでとう」と言ってもらえる立場でコートにいたかった。

昨シーズンはクォーターファイナルで負け、今シーズンはみんなでファイナルへ行こうと、声をかけあってチームをつくってきたので、その意味ではステップバイステップ、1 つずつ階段を上がっている途中だと思う。結果に満足はしていないが、必ず来シーズンにつながるものだと思う。

また東京オリンピックが 3 年後に近づいているため、今いる W リーグの選手全員が、バスケットをもっと盛り上げるという責任をもって、そういう気持ちをもってプレーすることが大切だと感じたシーズンだった。ふり返ると、昨日が「3.11」で 6 年前は、私は JX-ENEOS の一員でしたが、同じチームがファイナルを戦った。今年、私たちがファイナルを戦えたことに感謝しなければいけないと思う。全員が感謝の気持ちを忘れず、今後のためにも、全員が戦う気持ちを持って、バスケットがもっと良くなるように発信できればいいなと思っている。